

2018年度（平成30年度）

研究部門名 数学・情報数理学

講座名 代数

教員名 津嶋 貴弘

電子メール tsushima 理 math.s.chiba-u.ac.jp

(1) 研究論文などのリスト（印刷中を含む）

	著者・発表者等	タイトル	発表雑誌・会合等	巻・号	頁	発行・発表年等	掲載論文のDOI(付与されている場合)
(1)	Ito Tetsushi and <u>Takahiro Tsushima</u>	Cuspidal representations in the cohomology of Deligne–Lusztig varieties over finite rings	Israel journal of math	226, No.2	pp.877–926	2018	https://doi.org/10.1007/s11856-018-1717-x
(2)	Naoki Imai and <u>Takahiro Tsushima</u>	Local Jacquet–Langlands correspondence for simple supercuspidal representations	Kyoto Journal of math	58, No.3	pp.623–638	2018	DOI : 10.1215/21562261-2017-0032.
(3)	Takahiro Tsushima	On middle cohomology of Artin–Schreier varieties and Heisenberg group	Forum mathematicum	38, Issue 1	pp.83–110	2019	https://doi.org/10.1515/forum-2017-0085
(4)	Naoki Imai and <u>Takahiro Tsushima</u>	Affinoids in the Lubin–Tate Perfectoid Space and Simple Supercuspidal Representations I: Tame Case	International Mathematics Research Notices	未定	未定	未定	https://doi.org/10.1093/imrn/rny229

(2) 卒業研究、大学院修士および博士論文修了指導人数

- ・卒業研究 0名
- ・大学院修士 0名
- ・大学院博士 0名

(3) 教育業績（自己申告、テキストの作成など、授業の工夫など）

代数学演習と微分積分学 B2 を担当した。代数学演習では群論の演習問題を毎回作成しその背景などについて授業中に説明を行った。また微分積分学では理論的な部分を強調するとともに、具体的な問題をどうそこから導くかを授業中に実演して学生の理解を深める為の努力を行った。

(4) 国際会議出席と招待リスト

なし

(5) 新聞や雑誌等で報道された研究成果等（報道媒体，報道年月日，報道内容等）
なし

(6) 国際並びに国内学会での受賞（賞名，その内容，受賞理由等）
なし

(7) 国際共同研究（共同研究名，研究内容等）
なし

(8) 地域・社会と連携した教育・研究活動，学会、国、県などへの協力，など
なし

(9) 特許（発明者名，発明の名称，出願日，出願番号，整理番号等）（現時点で公表できるもののみ）
なし

(10) その他
なし